

次世代エネルギーが日本を変える



水素エネルギーは社会的な実現が近づいている。国は2040年ごろまでの目標を示した「水素・燃料電池戦略ロードマップ」を6月に策定。トヨタ自動車や市販の先陣を切り、15年から自動車各社が燃料電池車（FCV）の普及に乗り出す。水素利用は日本が先進の技術を持つが、今後、国際競争が激しくなることは必至。その中で優位に立ち、世界市場をリードする産業に発展させるには産学官の連携が欠かせない。水素エネルギー社会の実現に向け、それぞれのキーパーソンが集まり展望を語った。

福岡県は全国的にも水素エネルギーに関する取り組みが活発な地域です。知事の水素に対する考えをお聞かせ下さい。

小川 天然エネルギー資源に乏しい日本にとって自前のエネルギー源として、エネルギーの安定供給を図る必要がある。水素はエネルギー変換効率が高く、排出されるのが水だけという究極のクリーンエネルギー。さらに製鉄所、製油所の副生ガスや下水汚泥など多様な供給源が国内にあり、エネルギーの安定供給におけるキートンロジックとなる。エネルギー基本計画では将来の2次エネルギーの中心的役割を担うとされる。ロードマップで日本は、水素社会に向けて取り組みを内外に明らかにした。その第一歩を踏み出すことになると期待する。そのもとで私たちの役割を果たす。

水素関連の活動は、福岡水素エネルギー戦略会議が中心になっていいます。北九州市では製鉄所で発生した副生水素をパイプラインで供給している。工場の副生水素をパイプラインで市街地に供給するのは世界で初めて。

小川 県はオランダの産学官で、福岡水素エネルギー戦略会議を全国に先駆けて立ち上げ、10年になる。研究開

発、社会実証、人材育成、啓蒙の4分野に取り組んでいる。また、水素にかかわる企業を育成するため、製品開発などへの助成を行っており、実際の取り組みが出ています。

社会実証の一つは「水素タウン」。糸島市では家庭用燃料電池、エネファームを150世帯に設置した。これには液化石油ガス（LPG）から取り出した水素を使う。燃料電池の使われ方は家庭によって異なる。そのデータを集めて性能の向上に生かす。

北九州市では製鉄所で発生した副生水素をパイプラインで供給している。工場の副生水素をパイプラインで市街地に供給するのは世界で初めて。

九州大学は水素関連の研究が際立っている。大学にとって産業人材の育成は根幹。昨今は環境、エネルギー問題が盛んに言われ、低炭素社会が求められるようになっている。そこで九大は何ができるかとなり、水素エネルギーの拠点をつくり始めて10年になる。

大学ができることは三つある。一つは最先端の研究開発。二つ目は人材育成。国のロードマップも、会社や地域でけん引する人がいなければ絵に描いた餅。この先、30

40年のリーダーを育てなければならぬ。それも日本に限らず世界で活躍する人材だ。三つ目は水素エネルギー社会がどういうものか市民に示すこと。

エネルギーは社会の根幹であり、社会を変える学問分野。研究室に閉じこもらず社会に出て行く必要がある。九大は伊都キャンパスを「水素キャンパス」と名付け、未来社会のシナリオに力を入れている。

岩谷産業は水素事業のトップ企業です。上羽 当社は1930年に産業用ガスや溶接材料の販売で始まった。50年代にプロパンガスの販売を本格化。現在は民生用エネルギーと産業用ガスの二つの面を持つ会社

となっている。創業者の岩谷宣治は早くから水素に注目してあり、戦前から水素を販売している。歴代トップはその思いを引き継いできた。水素は多様な方法で製造することができ、さまざまな産業で使われ

ている。当社は昔から水素に近いところにいる。水素エネルギーについて先行投資してきた。合理的な輸送や貯蔵、供給関連装置の開発も行っている。

液化水素は60年代から研究開発し、78年に製造プラントを完成した。国の宇宙開発プロジェクトに早くから関わり、86年に打ち上げられたH1ロケットに液化水素が採用された。現在でも種子島までタンクローリーで届けている。00年ごろから大量に水素が使われる場所にとどまらず持つて行けばいいの本格的に検討し、06年に堺市に大規模供給プラントを稼働した。これまでに大阪、千葉、山口の3カ所に液化水素製造拠点を整備し、全国の需要に安定的に供給している。当社も福岡水素エネルギー戦略会議に参加し、勉強させてもらっている。

産業人材育成が根幹

佐々木氏

九州大学水素エネルギー国際研究センター長
佐々木 一成氏

日刊工業新聞社 西部支社長
長野 光博

水素エネに先行投資

上羽氏



九州大学は水素関連の研究が際立っている。大学にとって産業人材の育成は根幹。昨今は環境、エネルギー問題が盛んに言われ、低炭素社会が求められるようになっている。そこで九大は何ができるかとなり、水素エネルギーの拠点をつくり始めて10年になる。

大学ができることは三つある。一つは最先端の研究開発。二つ目は人材育成。国のロードマップも、会社や地域でけん引する人がいなければ絵に描いた餅。この先、30

40年のリーダーを育てなければならぬ。それも日本に限らず世界で活躍する人材だ。三つ目は水素エネルギー社会がどういうものか市民に示すこと。

エネルギーは社会の根幹であり、社会を変える学問分野。研究室に閉じこもらず社会に出て行く必要がある。九大は伊都キャンパスを「水素キャンパス」と名付け、未来社会のシナリオに力を入れている。

岩谷産業は水素事業のトップ企業です。上羽 当社は1930年に産業用ガスや溶接材料の販売で始まった。50年代にプロパンガスの販売を本格化。現在は民生用エネルギーと産業用ガスの二つの面を持つ会社

となっている。創業者の岩谷宣治は早くから水素に注目してあり、戦前から水素を販売している。歴代トップはその思いを引き継いできた。水素は多様な方法で製造することができ、さまざまな産業で使われ

ている。当社は昔から水素に近いところにいる。水素エネルギーについて先行投資してきた。合理的な輸送や貯蔵、供給関連装置の開発も行っている。

液化水素は60年代から研究開発し、78年に製造プラントを完成した。国の宇宙開発プロジェクトに早くから関わり、86年に打ち上げられたH1ロケットに液化水素が採用された。現在でも種子島までタンクローリーで届けている。00年ごろから大量に水素が使われる場所にとどまらず持つて行けばいいの本格的に検討し、06年に堺市に大規模供給プラントを稼働した。これまでに大阪、千葉、山口の3カ所に液化水素製造拠点を整備し、全国の需要に安定的に供給している。当社も福岡水素エネルギー戦略会議に参加し、勉強させてもらっている。

ステーション整備一体で 小川氏



福岡県は全国的にも水素エネルギーに関する取り組みが活発な地域です。知事の水素に対する考えをお聞かせ下さい。

小川 天然エネルギー資源に乏しい日本にとって自前のエネルギー源として、エネルギーの安定供給を図る必要がある。水素はエネルギー変換効率が高く、排出されるのが水だけという究極のクリーンエネルギー。さらに製鉄所、製油所の副生ガスや下水汚泥など多様な供給源が国内にあり、エネルギーの安定供給におけるキートンロジックとなる。エネルギー基本計画では将来の2次エネルギーの中心的役割を担うとされる。ロードマップで日本は、水素社会に向けて取り組みを内外に明らかにした。その第一歩を踏み出すことになると期待する。そのもとで私たちの役割を果たす。

水素関連の活動は、福岡水素エネルギー戦略会議が中心になっていいます。北九州市では製鉄所で発生した副生水素をパイプラインで供給している。工場の副生水素をパイプラインで市街地に供給するのは世界で初めて。

小川 県はオランダの産学官で、福岡水素エネルギー戦略会議を全国に先駆けて立ち上げ、10年になる。研究開



糸島市に整備した水素エネルギー製品研究試験センター

西部特集 九州の新・成長戦略 2014

福岡県知事

小川 洋氏

岩谷産業副社長

上羽 尚登氏

九州大学水素エネルギー国際研究センター長

佐々木 一成氏

〈司会〉

日刊工業新聞社 西部支社長

長野 光博

家具のことなら何でもお問合せ下さい

(家具・インテリア、一枚板製品、別注オーダー家具、家具の修理)

3万5千点の我が社の自信ある商品の中からお客様にピッタリの家具・インテリアをご用意いたします。

「大川に行って 関家具に見に行かんかったら損ばい」と言われるくらいになりたい。誰にも負けないくらい、企業努力と商品開発を行い続けています。

笑顔溢れる生活提案、全社員一同 ご来店をお待ちしています。

■ショールーム

東京・青山 (一枚板)・新宿 (一枚板)・五反田 (マットレススタジオ)
五反田 TOC (インテリア・雑貨)・神奈川・横浜 (インテリア・雑貨)
大阪・本町橋 (一枚板・インテリア・雑貨)
福岡・天神 (一枚板)・大川・大牟田 (一枚板・インテリア・雑貨)

■大川デザインミュージアム

住 所：福岡県大川市幡保 172-3
電 話：0944-88-0108
メール：odm@sekikagu.co.jp
時 間：10:00～18:00 (定休日：12/31・1/1)

■MAP



メイン会場からは、ゆめタウン側の一つ目の交差点を右折後800m、有明沿岸道路で東られるお客様は「大川東IC」で降りて幡保南を右折

住まいの空間作りは、「関家具」を見てから決めて下さい。



代表取締役 関文彦



家具産地 大川 関家具